物流ニッポン　7月21日号

外国人運転者採用学ぶ

静ト協引越部会 内定者と交流

静岡県トラック協会の引越部会（鈴木典男部会長）は、6月25日の全体会議に合わせてアイメイドアルファの荻野健社長を招き「外国人トラックドライバー採用の落とし穴とその回避方法」をテーマに研修を行った。

特定技能制度を利用して10月からタカキュー（佐野寛社長、富士市）でドライバー職として働くことが内定している、ミャンマー国籍のヤワエ・イン・アウンさんとイエン・ナイン・ソーさんも同席。参加者と日本語で交流した。

荻野氏は「当社のオリジナルプログラムは、日本の自動車免許証を取得する外免切り替えを日本での語学留学中に完了させるスキームで、来日から6カ月で済ませるという縛りがない。また、安全を担保するためには日本語能力試験N4から、日常会話に不自由しない上級のN3、N2レベルが必要になる」と強調。

その上で「プロドライバーとして最も重要なのは安全。しかし、アジアのドライバーは安全運転を理解しているものの、続けるのが難しい印象がある。当社では、安全の定着のためにドライブレコーダーを活用した教材を用意しているので、彼らが今後、どのように活躍するか見守ってほしい」と述べた。

安全運転については、教育プログラムとして「運転基礎教室」「ドラレコ安全教室」の教材提供で連携するエヌ・ピー・ロジ（愛知県刈谷市）の出口皓士社長は「当社ではグループの運送会社で外国人ドライバーを雇用した経験が10年以上ある。さまざまな言語に対応しながら、視覚的にも正しい運転行動を身に付けられる教材の配信も行っている。免許を所持しているだけでなく、本当の意味でのプロドライバーを育てたい」と話した。

鈴木氏は「外国人ドライバーの採用は業界全体の人手不足を解決するための大きな力になると思うので、今日の内容をぜひ参考にしてもらいたい」と述べた。

（梅本誠治）

ドライバーに内定しているミャンマー国籍のヤワエさん（左端）、イエンさん（右端）を紹介するアイメイドアルファの荻野社長